

併るに五十年間も他に後れて、舊態の儘を存して居つたと申すは、つまり教育學者が幼稚園保育を知らず保母が教育學を度外にした結果に外ならぬのであります。幼稚園の効果は彼の淺白者流の申す様ではありませぬ、併も今日多數の幼稚園に於ては、其儘では頗怪しいものが多い。其改善すべき點は容赦なくどしどし改善して以て當然收めるべき効果を收めなければなりません。而してこの改善は即現に保母其人に俟たねばならぬ。そこで保母諸君に向つては是非とも他の科學殊に教育學の原理方法に付きて最十分なる研究をなされんことを望む次第であります。教育學を單に小學校教員の専有だと考へて、一向に其方に着目せられないのは、決して自家の職務に忠なるものは申されませぬ。

愚痴と

取越苦勞

愚痴とか取越苦勞とか聞けば、直に女といふことを思ひ起します。これは實際つまらぬ愚痴をこぼしたり、取越苦勞をしたりする女が多いからであります。

皆さんは、かういふことを聞かになつたでしよう。

「わゝ、こんどの入學試験に落第したら、どうしよう」

「あんなに、よくたのんで置たのに、なぜこんな大きなふきにしたでしよう、ほんとにしようがない」

「昨日お天氣であつたら何さんの家に行かれ

たのに、雨が降つた計りに、折角支度までして置て行かれなかつた」

これ等に似よつた事は未だ澤山あります。此等の事を何時までも、繰り返しくわげもなく言つたり考へたりするのは即ち愚痴なり、取越苦勞なりであります。若し一家の中に、こんな愚痴を言つたり、取越苦勞をする人がありとすれば果してどうでしょう、決して面白くはありませんまい。

それは誰しも入學試験の前になつて、ことに志願者の数が非常に多い場合などには、落第したらどうしよう」といふことは一度はねもふかしれません。また、折角いひつけて置たことが、自分のいひつけた通りにしてなければ、「何故こんなことをして来たかしらん」と思ふでしょう。また、雨に降られて不都合であつた時に「雨さへ降らな

かつたら、この用事は昨日かたづいたものを、」とねもうかもしれません。けれども、只何時までも此の通りに考へたり、言つたり計りして居ても何の益にも立ちますまい。

「こんどの入學試験に落第したら」とねもふならば、若し落第したら、今一度奮發して來年試験を受けようとか。それまでには、もつと、算術を勉強しようとか。音楽を勉強しようとか。一度覺悟を定めたら、それでよろしうございます。それに、いつまでも「どうしよう」と無暗にいうても、少しも益にはたちません。くしやくしと思ふたから、と言つて決して試験がよく出来るものではない。たゞひ、少しの間でも、つまらぬ事に頭をつかつたり、心を苦めたりすれば、する程、馬鹿らしい事でございます。それよりは、どうしたら

及第することが出来るか、よく考へて一生懸命に、その様にど、つとめるのが第一でございませす。また、人にものをいひつけて、其通りしてなかつた時でも、翌日も、また翌日まで同じ愚痴を繰り返すなどは、まことにつまらぬことでございませす。それよりは、直にいひつけた通りに直はさせれば、それで何も言ふことはありませせん。若し、さもなくて直はさすことが出来ぬ場合とか、出来ても直はさせぬと定めたならば、いふてもかへらぬことです。から、もう、それきり思ひきつてしまつて、次にさせるときに尙よく言ひさかせたら、よろしうございませす。また、雨が降つて用事がかたつかなかつた時などに、愚痴をいふのは尙更つさらぬことでありませす。ふきのしかたが大ききとぎるとかいふ様に裁縫のしかたのわるいのは、あ

どで、し直させれば、取りかへしもつきませすが、雨の降つたのはこれは何ともいたしかたのない事で、人の力に及ぶことではありませせん。つぶやいて、寸毫も益はありませせん。

すべて女は物事に綿密で注意周到でございませすから、何かするときに、只かるはづみには、いたしませんで「これをこうすると何うなるか」「あゝするとどんなになるか」など後々のことを思ひませす。また、したあとで不結果にでもなりませすと、直には、それを忘れてしまひませせん。「あゝあんなことをしたからかうなつたのか」といふ風に過ぎたあとのことをふり返へつて見ませす。この後々のことを考へたり、過ぎたあとのことを省みるのは大切なよい事で、決して、取越苦勞だの、愚痴など、一口に言ふべきことではありませせん。取

越苦勞とか愚痴とかいふのは、何の益にも立たぬことを何時までも考へたり言つたりするのでありませす。つまり、安心したり、思ひきつたり、思ひ開いたり、することが出来ぬから起ることで極々馬鹿らしい事でございませす。私共はどうかして、こんな馬鹿らしい事に大切な頭をつかつたり、貴重な時間を費したくないものであります。れ互に、女は愚痴ぼいものだとか「取越苦勞をするものだ」といふことを考へる人がなくなる様にしたいものであります。

行水のすて所なし虫の聲



寄書



世の母たる人につぐ

埼玉縣 羽山好作

凡そ人間に教育を施すべき場所は、最初家庭に始まり、其の段階種々にして、小學校あり、中學校あり、大學校もありて、何れも肝要なりと雖も、就中兒童が家庭に在りて、其の慈母の膝下にある時程、最も大切な場合はあらず。彼の樹木に就て之を視るに、其の初生の時に於て受けたる癩痕は、成長すると共に其の痕も、亦益々増大すると同じく、人も幼稚の時に受けたる性癖は、何れの